

## 社会を繋ぐ架け橋

皆さんは税金といわれて、まず最初に何を思い浮かべますか。中には税金に対し、良いイメージをもっている人が居ないかもしれません。税金が増えることで生活費が中々安定しなかったり、不平等な状況が生まれることもあります。私も物価の上昇と税金の増加に驚くことがあります。例えば、夏祭りの屋台の値段も昔に比べると高くなり、子供達のお小遣の範囲で、思う存分楽しむことが難しくなりました。私の身の回りにも、増税によって時代を感じている人が多くいます。

しかし、税金は必ずしもデメリットばかりではありません。私達が納める税金は、道路や住宅の整備、教育費、医療費などにも使われています。もし税金が無くなれば、給料から所得税や住民税が引かれることはなくなるでしょう。しかし、その代わりに救急車や消防車のサービスの質が下がり、治安や死者数が悪化する可能性があります。また、教育の格差が広がり、社会の経済的な不平等も増えるかもしれません。

現在、日本では少子高齢化が進んでおり、税金を納める人口が減少しています。一方で、医療費や生活保護を必要とする人々が年々増加しています。私達が納めてる税金が、多くの高齢者の方々の生活を支えているのです。逆に、誰もが幼い頃は目先の高齢者の方々が納めていた税金によって支えられていました。当たり前のように皆が教材をもって学校に通い、怪我をしないように整えられた通学路、事故を防ぐための信号機を今では使っています。このように税金は循環し、私達の生活の一部となっています。

これらのことから、税金は社会と時代を繋ぐ大切な架け橋だと私は考えています。過去の人達が今の私達を支え、今の私達が未来を支えます。税金はそのために必要な存在です。

私はこのような税金の働きや、目的、必要性を自分でまず理解し、この架け橋を後世まで紡いでいきたいです。